

ヨード造影剤を用いた造影 CT 検査を受けられる患者さんへ

あなたが受けられる造影 CT 検査では、ヨード造影剤（薬品名 イオパミロン、オイパロミン、オムニパークなど）の注射が行われます。この説明書をお読みにになり、納得されましたら問診表に記入していただいたうえ、同意書に署名をしてください。ご不明な点は主治医や担当の放射線技師、看護師に質問してください。

1. 造影剤を用いた造影検査の必要性

- * 造影剤は画像検査で診断を容易にするために使用される検査用の薬剤です。今回の造影 CT 検査では、ヨード造影剤というヨウ素(ヨード)という物質を含む薬剤が使用されます。造影剤は血管(静脈)内に注射され、全身の血管や臓器に分布します。造影剤を使用することで病気の性質や血管や臓器の様子が鮮明に描出されるようになり、あなたの病気の状態をより正確に知ることができ、今後の治療に役立ちます。造影剤を使用しなくても CT 検査は行えますが、正しい検査結果を得られない場合があります。

2. 造影剤投与による偶発症(一定の頻度で起こりうる合併症)

- * 注射に際して、造影剤の漏れ、末梢神経障害による痛みが起こることがあります。
- * 軽い副作用として吐き気・動悸・頭痛・かゆみ・発疹などがみられます。これらの軽い副作用の起こる頻度は、およそ 50 人につき 1 人(約 2%)です。
- * 重い副作用として呼吸困難、意識障害、血圧低下、ショック、腎機能障害、末梢神経障害による激しい痛みなどがみられます。このような重い副作用の起こる頻度は、およそ 1000 人につき 1 人(約 0.1%)です。これらの副作用には治療のため入院や手術が必要なこともあります。また後遺症が残る可能性があります。
- * 非常にまれですが、病状・体質によってはおよそ 10~20 万人につき 1 人の頻度(約 0.0005~0.001%)で、死亡する場合があります。
- * 副作用は注射後 30 分以内に現れる場合がほとんどですが、検査終了後 1 時間から数日の間にかゆみや発疹などが遅発性に生じることもあります。
- * アレルギー歴、特に気管支喘息(ぜんそく)、造影剤の副作用歴がある場合には副作用の危険性が高くなります。

造影剤を注射された時には 1~2 分間ほど体が熱く感じる場合があります。この注射時の熱感には造影剤が血管を刺激することで生じる正常な反応であり、一時的なもので副作用ではないので心配ありません。

3. よくある質問

- なぜ造影剤を使用するのですか？
 - * 造影剤によってあなたの病気の状態をより正確に知ることができ、今後の治療に役立ちます。造影剤を使用しなくても CT 検査は行えますが、正しい検査結果を得られない場合があります。
- 造影剤をどれくらい使うのですか？ どのように注射するのですか？
 - * 検査目的や患者様の体重にあわせて使用量は変えています。通常 100~150 mL です。正確かつ高速に注入する必要がありますため、機械を使って静脈から注入します。
- 注射された造影剤はどうなるのでしょうか？
 - * 注射された造影剤は 24 時間以内に全量が腎臓から尿中に排泄されます。透析中の患者さんでは、透析によって除去されます。
- 造影剤が注射中に漏れたりしないのでしょうか？
 - * 機械を使って高速に造影剤を注入するために、血管外に造影剤が漏れることがあります。この場合には、注射

した部位が腫れて痛みを伴うこともありますが、通常、時間とともに吸収されて症状もなくなりますので心配ありません。漏れた量が非常に多い場合には、処置が必要となることもあります。まれです。

● 検査前に食事の制限はあるのでしょうか？

- * 腹部や骨盤部以外の部位の検査を受けられる患者さんには食事に制限はありません。
- * 腹部や骨盤部の検査を受けられる患者さんは検査予定時刻の4時間前から食事をとらないでください。ただし、少量の水やお茶などの水分はとっていただいてもかまいません。ただし、牛乳、ジュースなどは正しい診断結果が得られなくなる可能性があるためとらないでください。

● 常用薬は飲んでもよいのでしょうか？

- * 常用薬はふだん通り飲んでください。
- * ただし、糖尿病の患者さんでビグアナイド系糖尿病薬(メグルコ錠・メディット錠・ジベトス錠など)を飲まれている場合、造影CT検査の当日と翌日の2日間、ビグアナイド系糖尿病薬の内服を休薬する必要があります。飲まれている方には主治医から説明があります。その他の糖尿病薬は休薬の必要はありません。

● 注射を受けた後、食事や入浴などに制限はあるのでしょうか？

- * 注射の後、特に制限はありません。ふだん通りの生活をしていただいてもかまいません。
- * 尿中への造影剤の排泄を促進するため、水分を多めにおとりください。

● 副作用はどのような場合に出やすくなるのでしょうか？

- * アレルギー体質の方は副作用が出やすくなります。特に気管支喘息(ぜんそく)の患者さんでは、重篤な副作用が出やすくなります。
- * また、過去に造影剤を使用して副作用が出た患者さんでも副作用の危険性が高くなります。
- * 気管支喘息のある場合や過去に造影剤の副作用があった場合、重篤な肝障害、腎障害、甲状腺疾患がある場合、多発性骨髄腫などの疾患の場合には、原則として造影剤の注射は行わないことになっています。ただし、これらの場合であっても、主治医が患者さんの治療上必要と判断した時には造影剤の注射を行うことがあります。なお患者さんが造影剤の使用に同意されている場合であっても、検査を担当する放射線科医師の判断で造影剤を使わない場合もありますのでご了承ください。

● 副作用が出た場合の対応はどうなっていますか？

- * 万一の副作用に対して万全の体制を整えて、検査を行っています。検査中、看護師、放射線技師が常に観察しています。なにか異常がみられた場合には検査を中止し、薬剤の投与など最善の対処を行います。もしなにか異常を感じましたら、ためらわずにすぐにお知らせください。

● 外来の患者さんで帰宅途中、後に副作用の症状が出た場合にはどうすればいいのですか？

- * 速やかに下記の

緊急連絡先

神鋼記念病院代表 078-261-6711

までご連絡ください。

☆ 診療時間内では放射線科検査担当医または主治医が、夜間、休日では当直医師が対応いたします。

神鋼記念病院